

SIM SONIC DESTRUCTION 2

ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2B TYPE0 CARRIER FIGHTER /
HASEGAWA 1/32 MITSUBISHI J2ME2 RAIDEN JACKIE / HASEGAWA 1/48 AICHI B7A2 RYUSEI KAI [GRACE] /
HASEGAWA 1/32 FOCKE-WULF FW190D-9 / HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Me262B-1a/U1 /
TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT / HASEGAWA 1/48 SAAB J-35D DRAKEN / AZ model 1/48 SAAB J-29F TUNNAN

清水圭
著
Kei Shimizu
大日本絵画
Dainippon Kaiga



SIM SONIC DESTRUCTION

2

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック 2

清水 圭／著
by Kei Shimizu

大日本絵画
Dainippon Kaiga

TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT



CONTENTS

目次

PREFACE

004.....前書き

THE EXPECTED AUDIENCES CONTINUED

007.....続 この本はこんな方のためのものです

PAINT AND PAINT BRUSHES

008.....塗料と筆

THE "SIM" METHOD

010.....清水流基礎知識 2025

SIM'S BASIC PAINT

012.....SSD すべての基本となる塗装方法

CHAPTER 1

ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2b TYPE0 CARRIER FIGHTER

014.....アカデミー 1/48 三菱 A6M2b 零式艦上戦闘機 二一型 (隔月刊スケールアヴィエーション 2024年9月号 (Vol.159) 掲載)

CHAPTER 2

HASEGAWA 1/32 MITSUBISHI J2M3 RAIDEN [JACK]

030.....ハセガワ 1/32 三菱 J2M3 雷電二一型 (2024年 本書用作り起こし)

ADVANCED APPLICATION 1

応用編 1 架空イギリス機仕様を作る

HASEGAWA 1/48 AICHI B7A2 RYUSEI KAI [GRACE]

048.....ハセガワ 1/48 愛知 B7A2 流星改 (隔月刊スケールアヴィエーション 2023年11月号 (Vol.154) 掲載)

CHAPTER 3

HASEGAWA 1/32 FOCKE-WULF Fw190D-9

054.....ハセガワ 1/32 フォッケウルフ Fw190D-9 後期型 (隔月刊スケールアヴィエーション 2025年1月号 (Vol.161) 掲載)

ADVANCED APPLICATION 2

応用編 2 ドイツの大戦機を作る

HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Me262B-1a/U1

072.....ハセガワ 1/32 メッサーシュミット Me262B-1a/U1 (隔月刊スケールアヴィエーション 2020年7月号 (Vol.134) 掲載)

CHAPTER 4

TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT

080.....タミヤ 1/48 グラマン F-14A トムキャット (隔月刊スケールアヴィエーション 2025年1月号 (Vol.161) 掲載)

ADVANCED APPLICATION 3

応用編 3 シルバーのジェット機を塗る

HASEGAWA 1/48 SAAB J 35D DRAKEN

098.....ハセガワ 1/48 サーブ J 35D ドラケン (隔月刊スケールアヴィエーション 2019年7月号 (Vol.128) 掲載)

AZ model 1/48 SAAB J 29F TUNNAN

102.....AZ モデル 1/48 サーブ J 29F トゥンナン (隔月刊スケールアヴィエーション 2012年7月号 (Vol.86) 掲載)

CHAPTER 5

A TALK WITH SHU-HEI MATSUMOTO

104.....清水 圭 × 松本州平 筆塗りの極意と気概の狭間で



ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2b TYPE0 CARRIER FIGHTER

PAINT AND PAINT BRUSHES

清水流の筆塗り仕上げに使用するのはこのページに載っているツールやマテリアルだけ。どれも手軽に入手可能で価格もお手頃なものばかりとなっている

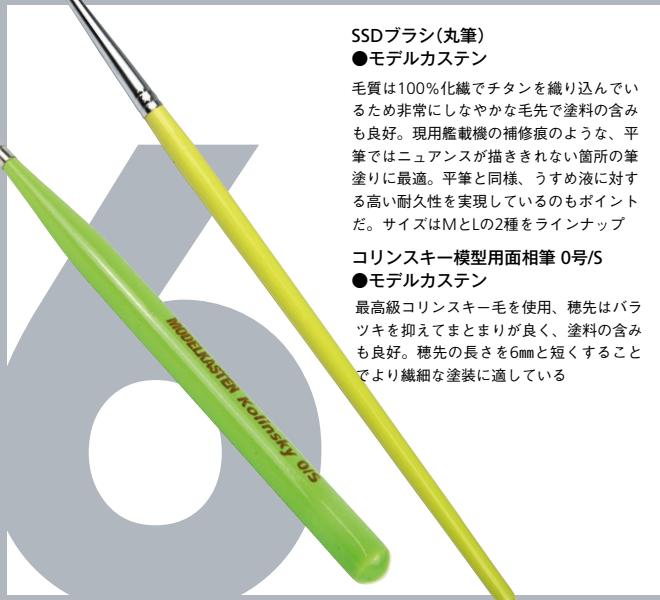
塗料と筆



SSDブラシ(平筆)

●モデルカステン

清水氏監修の筆塗りに特化した平筆。繊細な弾力でしなやかな筆運びが可能、毛質は化纖100%。うすめ液への耐久性を考慮してチタンを配合している。飛行機模型のスケールサイズ1/72、1/48、1/32にあわせて筆幅も4.0mm、5.0mm、6.5mmの3種を用意



SSDブラシ(丸筆)

●モデルカステン

毛質は100%化纖でチタンを織り込んでいため非常にしなやかな毛先で塗料の含みも良好。現用艦載機の補修痕のような、平筆ではニュアンスが描ききれない箇所の筆塗りに最適。平筆と同様、うすめ液に対する高い耐久性を実現しているのもポイントだ。サイズはMとLの2種をラインナップ

コリンスキーモデル用面相筆 0号/S

●モデルカステン

最高級コリンスキーモデルを使用、穂先はバラツキを抑えてまとまりが良く、塗料の含みも良好。穂先の長さを6mmと短くすることでより繊細な塗装に適している



メイクアップ綿棒

●ダイソー

ウォッシングの拭き取りに大活躍するのが綿棒。汚れたらどんどん交換していくものなので100円均一ショップで入手できるものをチョイス。ただし安ければよいというものでもなく、サイズ感と先端が崩れにくいやさしいメイク用を推奨したい



極細竹ようじ

●モデルカステン

ハイグレード模型用

●セメダイン

ここで紹介する接着剤は一般的な組み立て用ではなくキャノピーなどの接着に使うもの。瞬間接着剤のように曇ったりせず乾燥時間に余裕があるのもポイント。竹ようじは接着剤を塗布するときのアブリケーターでは、はみ出した接着剤の除去にも使える

6



▲プロペラの表はHSM01 スーパーファインシルバーで塗装、H21 グランプリホワイトでタッチを入れる。プロペラは回転方向、スピナーは整備の手が触れるなどを念頭に

7



▲プロペラの裏面はH47 レッドブラウンを基本色として塗装。H66 RLM79 サンディブラウンでタッチを入れていく。ここはあまり明度を上げ過ぎるのがポイント

8



▲カウリングはH2 ブラックで2回塗装し、タッチ入れはH69 RLM75 グレーバイオレット。胴体とは異なり、基本塗装、タッチとも上下や前後方向の筆目は入れず質感に変化をつけている

9



▲全体のタッチ入れが終了しここでデカールを貼る。デカール周囲の余分なニスはウェザリング等で目立つかと思いきや、実際はほとんど目立たないので心配は無用

10



▲デカールが完全に乾燥したらH21 グランプリホワイトでデカールに退色表現を施す。希釈濃度は機体本体のタッチ入れ同じ、全体と馴染ませるように色を置いていく

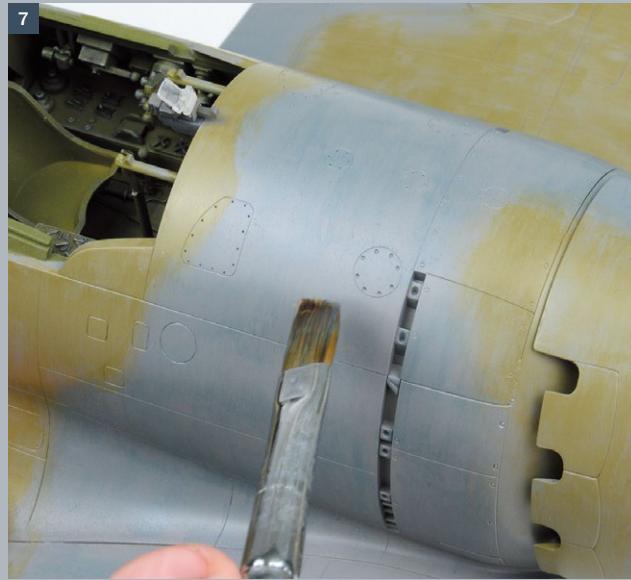
11



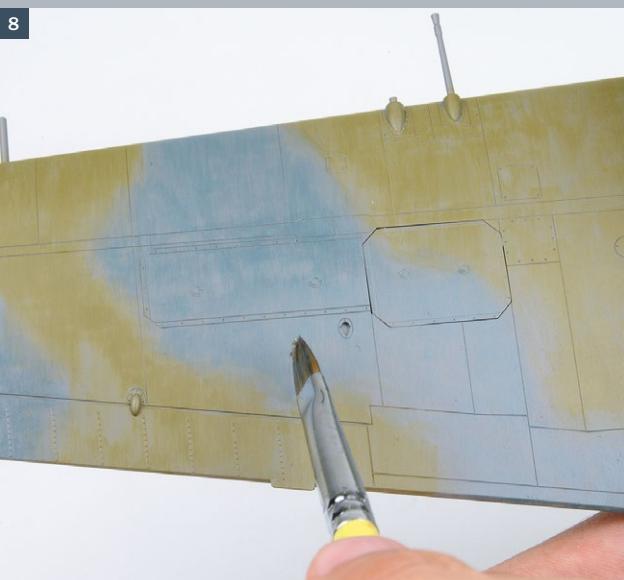
▲パネルラインを気持ち引き立たせるように、を意識しながらパネル面の内側にタッチを入れていく。くわえて機体上面と側面とでは光の加減なども勘案して強弱をつけている



▲機体の基本塗装2色目は、H615 ジャーマングレー／グラウ(退色)。希釈濃度はかなり薄め、機首周りは完成時に視線が集まるポイントなので、メリハリの塩梅を考えながら塗っていく



▲2色目の2回目。水性ホビーカラーの特性として乾燥時間の早さがある。希釈濃度は薄めだが、思っている以上に塗ったそばからどんどん乾いていくので手早く塗っていく



▲2色目の3回目では、かなり色が乗っているのが確認できる。主翼の筆運びは前後方向、塗料は思ったほど“伸びない”ので筆のストロークは短めとなる



▲機体下面色は、H75 ダークシーグレー。基本塗装の1回目なので一見、色が乗っていないよう思えるが筆目はしっかりとついている。繰り返すが“塗りつぶすこと”が目的ではない



▲機体下面のH75の3回目。パネルラインやディテールを浮き出たせるように下地を残しつつ、塗り重ねの強弱が付けられている。塗料の濃度は薄くても充分に色は乗る



▲機体塗装の全体の様子を見ながら、メリハリが足りないと感じた箇所には追加で色を乗せ、表情を付けていく。ただしこの後、タッチの行程を施すのではなくて止めておく

4. ウオッショング WASHING

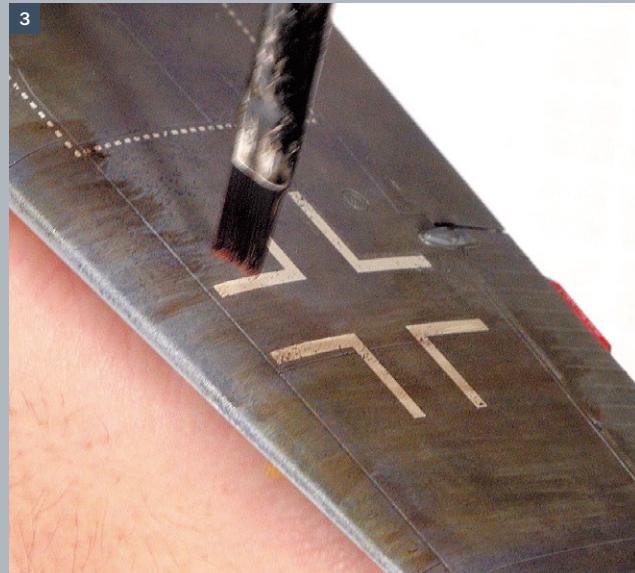
使用するのはスミ入れ塗料の瓶底に沈殿した濃い目の部分。筆は傷みやすいので安価な平筆で充分だ。拭き取りの面棒は先端が通常の丸いものと尖ったものを併用すると効率が上がる。また綿棒は汚れ過ぎたり、ほつれたりする前にどんどん交換していく。ビッグスケールの機体ではパネルごとに拭き取りを行なうとパネル面ごとに表情に変化が生じ、均一化を防げる



▲ウォッショングのスミ入れ塗料の塗布では筆目の方向などは考えずに、ある程度の面積をまとめて塗ってしまうが、全体を一気に塗ってしまうと拭き取り忘れ等発生するので注意



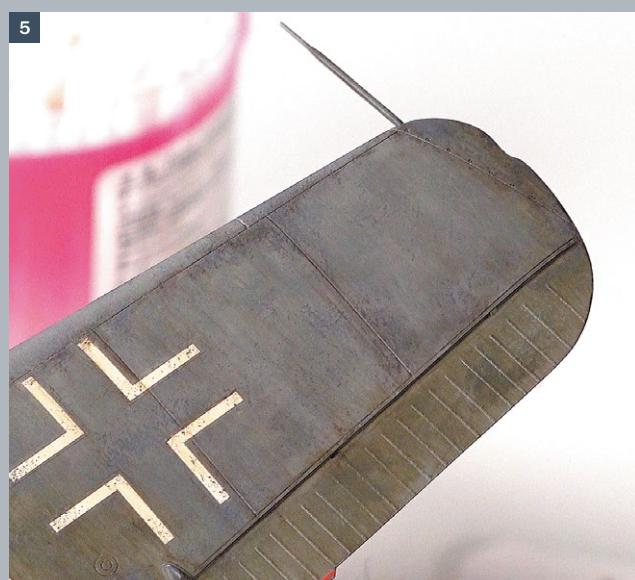
▲ウォッショングの拭き取りはエナメル塗料用うすめ液に浸した綿棒を使用。拭き取る方向は、胴体は上から下に、主翼と尾翼は前から後ろに向かって、が基本



▲スミ入れ塗料の濃度が濃い目であることが筆目からも確認できる。拭き取り過ぎたと感じたらもう一度塗布してやり直せるのも、この工程のメリット



▲塗布するのはある程度の面積を纏めてで良いが、拭き取りはパネルごとに塗りなった方が変化が付きやすい。くわえてパネルラインに塗料も残りやすいのでスミ入れ効果もアップする



▲動翼部との拭き取り具合の差で、ここまで変化が付いているのがわかる。拭き取る動きを前後方向にしているので、自然な気流の流れを感じさせるスミ入れ塗料の層も見て取れる



AIRCRAFT DESCRIPTION

FOCKE-WULF Fw190D-9 LATE VERSION

III./JG2 MAY 1945 GERMANY

第2戦闘航空団が最後期に運用した機体 Fw190D-9後期型の1機 “黒の6”。

1800機余りが生産されたフォッケウルフFw190D-9の中でも150機程度がTa152の垂直尾翼を装着した後期型と呼ばれている。しかし実機写真が少なく、諸説あるが確認されているのは2機のみといわれている。この作例の機体、製造番号W.Nr.500645はそのうちの1機で、所属は第2戦闘航空団(JG2) 第III飛行隊第8中隊。黄白黄の帯が防空部隊識別帯で第2戦闘航空団を表し、胴体鉄十字の後ろの縦棒が1941年以降に制定された第III飛行隊の標識。標識、機番の黒は第8中隊を表している。機体の迷彩は、制空権を奪われた1944年後半から地上からの視認性を優先して再びグリーン系の迷彩とするよう空軍省からの指示があったのでグリーン系と思われるが、1945になると塗料の供給もままならなくなり、各メーカーはストックの塗料で体裁を整えるのが精いっぱいであった。また空軍省が迷彩指定色の説明をしなかったケースもあり、写真から正確な色調の判別はほぼ不可能でもあることから、この機体の塗色も推定しかない。スピナーのスパイラル塗装は高射砲避けといわれ、一部の機体が縁起担当として施していたが1944年7月から単発・双発戦闘機の標準塗装となっている。



ADVANCED APPLICATION 2

応用編2

ドイツの
大戦機を作る



CHAPTER 4

GRUMMAN

F-14A TOMCAT

TAMIYA
1/48 SCALE





▲エアクラフトグレーのスタンピング2回目の終了。1回目と比較してパネルラインがはっきりと浮かび上がり、全体に充分に色が乗ってきてているのが確認できる



▲エアクラフトグレーの3回目開始。ここからはうすめ液を少し多めのシャバシャバな濃度に調整してスタンピング。テクスチャーの粒子がやや大きくなり、質感が大きくが変わる



▲この段階ですでに塗害などの褪色表現に見えているのだが、この工程での目的はスタンピング粒子サイズの変化によるテクスチャー作りだ



▲うすめ液による希釈量を変化させることで、より複雑なテクスチャーを得られる。資料を見て実機のどこが汚れるかを確認つつ、しかし実機に忠実というよりは全体のバランスを優先



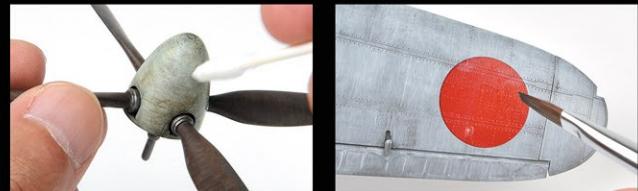
9784499234214

ISBN978-4-499-23421-4 C0076 ¥3600E

定価(本体3,600円+税)



1920076036002



SIM SONIC DESTRUCTION 2

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック 2

Kei Shimizu

